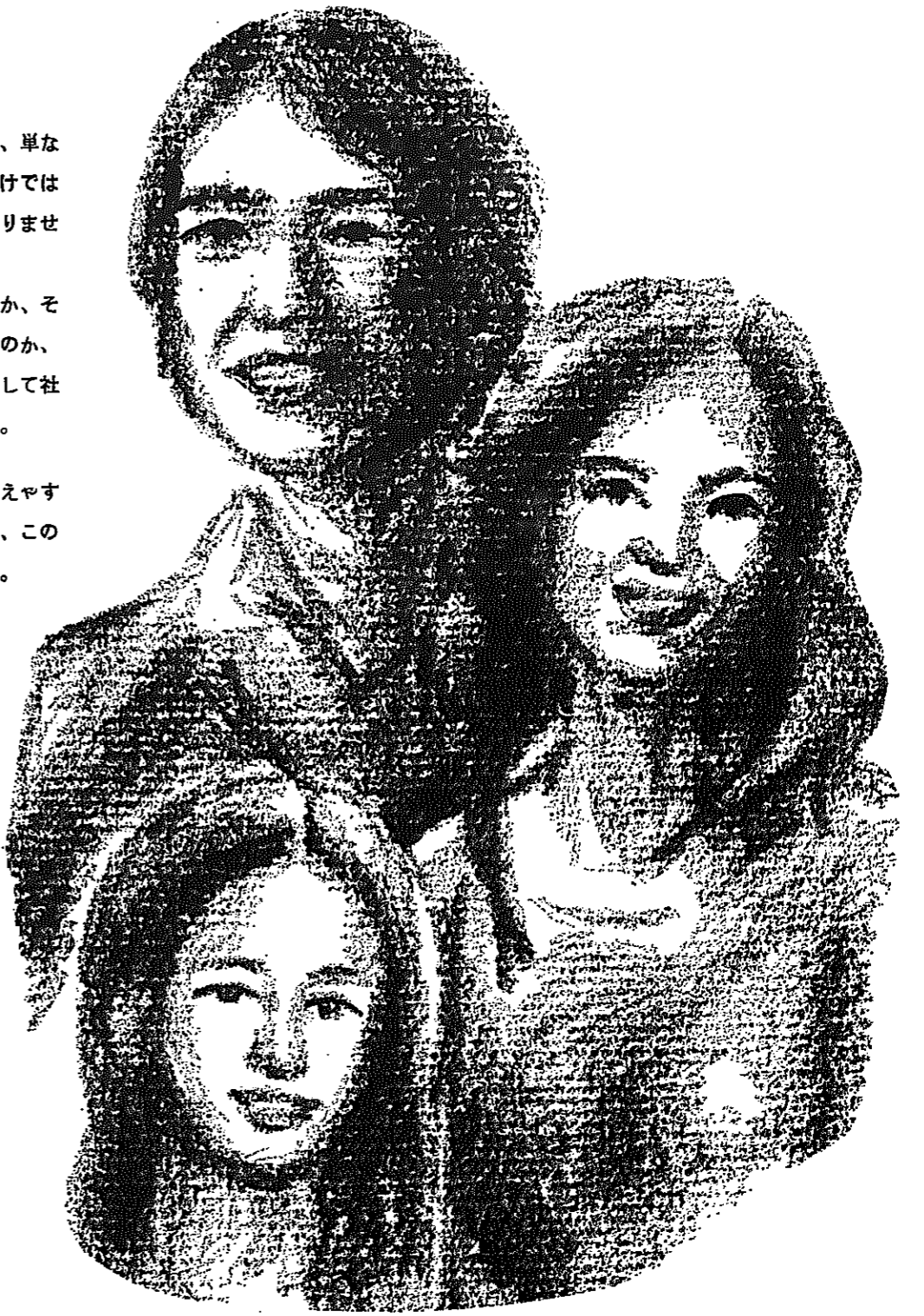


ならどう考える 非行防止は不可能なのか

青少年の非行問題——これは、単なるかけ声やうわべだけの理解だけでは決して解決できる問題ではありません。
少年たちがなぜ非行に走るのか、それは少年の資質的原因によるものか、あるいは家庭、学校、職場、そして社会にその責任があるのでは……。

これからはくくに非行の芽ばえやすいシーズン。そこで今月号では、この問題について特集してみました。



あなた 子どもたちの

窃盗などの刑法犯が増加

白根警察署の統計によれば、最近三年間の非行少年の補導件数は横ばいで、数字だけでみると五十年は、むしろ前年を下回っています。
ところが非行の実態を詳しく調べると、次のような特色がみられます。

第一は非行少年の年齢層が低年齢化し、集団化している。
第二の特色は窃盗などの刑法犯が増加していること。
第三には罪の意識がなく、遊び型の非行が多い。

補導の内容をみると、昨年一年間で、市内で補導された二百十九人(毒劇物法違反などの特別法犯を含む)のうち、飲酒喫煙白人、窃盗五十四人、夜遊び三十二人、不純異性交遊十一人が主なもので、このほか不健全娯楽、わいせつ行為などがつづきます。

さらに白根署以外で補導された市内の少年も多く、その数は百八十八人となっています。
このうち、新潟市で補導されているケースがほとんどで、原

因としては、同市の高校へ相当数、通学していること。娯楽施設がたくさんあり、余暇を利用して遊びにでかけるなどがあげられます。
また市内で補導された少年たちを学職別にみると、有職者四一・四%、高校生三五・三%、中学生一六・三%、小学生四%で、有職少年をトップとする全国的な傾向がうかがわれます。

しかしながら、ここで注目しなければならぬことは、中、高校生による犯罪を合わせると(集団万引きの激増で——)五一・六%というのも、新たな大きい問題となっています。

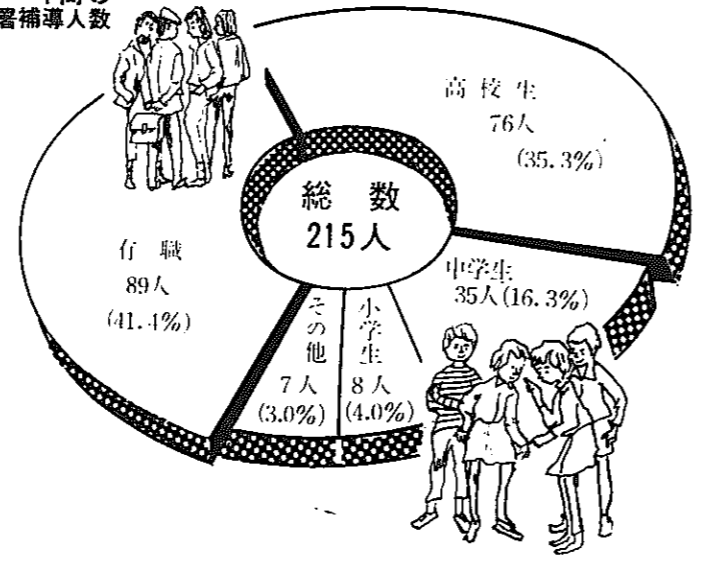
刺激に敏感

通学道路の電柱にたてかけられている刺激的な映画の看板。タバコや酒類、雑誌など簡単に求めることのできる自動販売機。最近、国道沿いにみうけられながらも、子どもたちの間に人気のあるゲームセンターなど、私たちの回りをみわたしても、青

少年の興味をそそるものが数少なくありません。
たとえそれらが、直接には非行に結びつかないまでも、こうした環境が青少年を刺激し、非行に走る糸口になることも、十分考えられます。

「自分の金を使ってゲームしているのになぜいけない?」(ゲームセンターで小学生)。
「タバコ……」
「すたって別にどうってことないじゃない自分はずわなわけどネ」(中の口川堤防で——見高校生風の男子)。
「暴走族、すぐカッコいいじゃない。ムシヤクシヤしたときなど自分もあんなふうになりたいときがあるもん」(電車で降りた高校生の男子)。
カッコいいことを求め、スカッとすることを探すのが青少年の特色——。これらを求め、平

昨年一年間の白根署補導人数

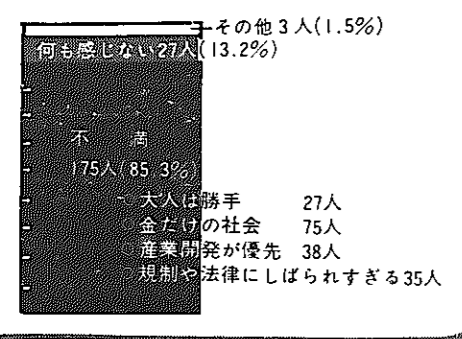


凡で俗っぽくないことをやって世間をアツといわせようとする。こんな単純で衝動的で創造性に欠けるようにみえる、青少年の言動……何がいったい彼らの心をかきたてるのでしょうか——。

不満だらけの社会

中学生から高校生にかけての時期は、日常の学習体験や生活

社会に対してどのように思うか



高校生意識調査から
▽対象者 白根高校二年生 二百二十五人
▽回答者 二百五人(91.2%)

大人は勝手 27人
金だけの社会 75人
産業開発が優先 38人
規制や法律にしばられすぎる 35人